

連 載

臨床心理学
キーワード *Key Word*

第 62 回

チーム医療／多職種協働／臨床心理士の役割と専門性

team medicine / multidisciplinary collaboration / roles and specialization of clinical psychologists

津川律子*・岩満優美**

(*日本大学文理学部心理学科／**北里大学大学院医療系研究科医療心理学)

チーム医療
team medicine

「チーム医療」という言葉は、1970年代になって使われるようになり(細田, 2009), いまは医療保健領域に勤務する臨床心理士であれば誰もが知っている用語となった。しかし, 学術的な定義はさまざまであり, 医学領域においても「チーム医療」の概念が十分に議論し尽くされているとは言い難い。「医師と医師以外の職種の間には従属関係が存在していた長い歴史」(渡辺・稲葉, 2005)が存在し, その状態から「多種多様な職種がお互いに連携をとって, 共通の目標に向かって主体的に関わり, 単なる分業以上の成果を生み出していく」(同, 2005)方向に変化してきた。これが「チーム医療」の一般的な捉え方であろう。最近では「チーム医療」という概念の中に患者本人や家族も含めて考えていることも多い。

なお, 厚生労働省(2010)は「チーム医療」を次のようなものとしている。「チーム医療とは、『医療に従事する多種多様な医療スタッフが, 各々の高い専門性を前提に, 目的と情報を共有し, 業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い, 患者の状況に的確に対応した医療を提供すること』と一般に理解されている」。

以上のように, チーム医療という言葉には時代背景が関係しているが, 現在, チーム医療は, 精神科, 小児科, 身体科(がん, 糖尿病, 緩和ケア, 移植, リハビリテーション領域)といったさまざまな科や分野において実際に実現している。そして, 医師と看護師のみならず多職種によるチーム医療の“理念”に関して反対する者は少なく, 推進すべきものとされているが, 日本における実際のチーム医療にはさまざまな障壁や課題が存在する。最も大きいものが, 法律上の障壁である。加えて, 前述のような主従関係が実際の臨床現場では現在も続いている側面があること, 職種による経済的な格差, 病院経営に意見を伝えられない職種の多さ, 各職種における職務の専門性と重複部分の存在, 教育研修の問題等々が山積みである。

さて, このところ「チーム医療」に関する話題が沸騰しているのは, 現実的には「特定看護師」に関する議論があるからである(厚生労働省, 2010)。この「特定看護師」議論のために, 厚生労働省は「チーム医療推進会議」の下に2つのWG(ワーキンググループ)を作った。ひとつはまさに特定看護師に関するWGであり, もうひとつは特定看護師に限らない多職種によるチーム医療について「チーム医療の取組の指針となるガイドラインの策定」などを目的とした「チーム医療推進方策検討WG」である。ここで作られる

ガイドラインに、心理的な観点の必要性や臨床心理職の存在が明記されなければ、その影響は医療保健領域に勤務する心理職全体を直撃するものと予想されたため、一般社団法人日本臨床心理士会医療保健領域委員会が活動して（奥村・津川, 2010, 2011）、当初は盛り込まれていなかった「心理的な観点」「心理面のサポート」「臨床心理士」などの文言が「チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集」に盛り込まれることとなった（厚生労働省, 2011）。

今後も「チーム医療」を巡る議論はさらに活発化することが予想される。「チーム医療」がどのように概念化され、現実に実現されてゆくのかは、医療保健領域に勤務する臨床心理士だけでなく、臨床心理学に関わる皆に影響を及ぼす重大事であることを、読者には事実として知ってほしい。

文 献

- 細田満和子（2009）「チーム医療」の理念と現実—看護に生かす医療社会学からのアプローチ。日本看護協会出版会。
 厚生労働省（2010）チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会報告書）。<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf>（2011年2月28日現在）
 厚生労働省（2011）チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集。<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200001ehf7.html>（2011年6月6日現在）
 奥村茉莉子, 津川律子（2010）医療関連の動き。一般社団法人日本臨床心理士会雑誌第67号（第19巻3号）；7。
 奥村茉莉子, 津川律子（2011）：チーム医療関連の動き。一般社団法人日本臨床心理士会雑誌第68号（第19巻4号）；7。
 渡辺博, 稲葉憲之（2005）医療者間、患者とのコミュニケーション。チーム医療。日本産科婦人科学会雑誌57-11；N-493-N-497。

①たとえば精神科であれば、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士など、がん医療であれば、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、臨床心理士など、多職種でチームを構成する。②チームとしての共通の目標に向かって、各職種がそれぞれの専門性をもって、お互いに連携をとりながら、患者を治療・援助する。

しかし、各職種の価値観や認識の違い、患者の診断・アセスメントの手順や方法の違い、それぞれの職種がこれまで受けてきた教育や専門性の違いなどから、多職種による協働が円滑に進まないことがある。この場合、チームの中に「陰にこもる」感じの軋轢や、「言った、言わない」という情報交換の混乱、あるいは「あなた任せ」の役割分担の曖昧さが生じ、チーム医療が成立しなくなる（白波瀬, 2010）。

本来、多職種が上手く協働するためには、多職種間で理解できる共通言語を用いること、チーム内での目標を明確にすること、各職種の役割を明らかにすること、さらには、各職種が自身のアイデンティティをもちながらも、それに固執せずに柔軟に対応すること、情報はチームで共有し、カンファランスを行うなど、常にコミュニケーションをとることが大切である（大橋, 2007）。すなわち、チーム医療のメンバーは自身の専門性を持ちながらも、各々の役割を互いに理解・尊重し、共通の目標に向かって共通の言葉で情報を共有してはじめて、協働が始まるのである。このような協働が上手くいった場合、そこで発揮される力は、各職種が連携なく個別に患者にアプローチした場合とは比べものにならない。

ところが、患者側からすると考えづらい医療の現実がある。「自分に関わっている医療従事者たちが、連携することなく、時には面識すらなく医療を行っているなどとはほとんど考えていない」（細田, 2009）状態を超えて、他の職種の職名や何をする職種なのかをあまり知らないまま総合病院で勤務できてしまうという現実がある。まずは、各職種の存在と主要業務を知ろうとする努力が必



多職種協働 multidisciplinary collaboration

「チーム医療」概念のひとつの核が「協働」であり、チーム医療の実践には多職種による協働が欠かせない。ところが、そういったノウハウは実際には十分に教育されておらず、実践に移すには困難が伴う（大谷, 2008）。多職種による協働とは、

要である。たとえば、本稿執筆現在でチーム医療推進協議会(2011)に加盟している職種だけでも、すべての職名や主要業務を把握する努力を各職種が互いにしたい。

文 献

- 細田満和子(2009)「チーム医療」の理念と現実—看護に生かす医療社会学からのアプローチ。日本看護協会出版会。
- 大橋秀行(2007)多職種チーム—私たちチームはどうすればうまく協力できるか:良いチームが育つ条件。精神科臨床サービス 7・4; 92-99。
- 大谷京子(2008)職種の役割と多職種間連携。精神障害とリハビリテーション 2・1; 34-39。
- 白波瀬文一郎(2010)チームを立て直し、そして育てるという視点—チーム医療の基本となる心理学。分子精神医学 10・2; 154-155。
- チーム医療推進協議会(2011)チーム医療を知ろう!。
<http://www.team-med.jp/index.php> (2011年2月28日現在)



臨床心理士の役割と専門性 roles and specialization of clinical psychologists

現在では、チーム医療のメンバーとして臨床心理士が加わることも多くなったが、実際に他の職種が臨床心理士の役割と専門性を十分に理解しているとは考えにくい。臨床心理士が心理面接を個別に行うことが多く、一般に患者の情報を抱え込みやすいこと、臨床心理士自身も臨床心理士としてのアイデンティティを確立できずに、自身の役割を明示できないことなどから、特に、身体科の他職種が臨床心理士の役割を十分に理解することは困難なのが現状ではなからうか。しかし、たとえば緩和ケアチームの他職種のように、臨床心理士に、患者や家族の心理的援助、チーム医療、および他職種の心理的サポートなどを望む声が多くあることも事実である(岩満ほか, 2009)。もちろん精神医療においても多くの精神科医が臨床心理士に対して患者の心理的アセスメントや心理的援助を求めており、臨床心理士と連携したいと考えている(岩満, 2010)。

中心的な課題のひとつは、医療保健領域におけ

る臨床心理士の役割が、輪郭として未確立なことにあるのではないだろうか。心理検査と狭義の心理療法のみが臨床心理士の業務であると主張する現場の臨床心理士は少なくなり、医療保健領域において臨床心理士が担当する業務は広がりを見せていることは事実である。かといって「心理面からの支援」が臨床心理士の役割とするのでは概念が広すぎるうえに、そもそも心理面に配慮することは医療保健領域に勤務するすべてのメディカルスタッフが実行すべきことである。どこまでが医療保健領域に勤務する臨床心理士の役割で、何が中核的な業務なのだろうか。実際に医療保健領域に勤務している臨床心理士たちが、自らこの問いに対する答えを出すべく、その輪郭を形作ろうとする努力がいま必要とされている。

一方、医学的知識や医療システムの知識が乏しい臨床心理士が一部に存在することは、他の職種から指摘されるところであり、チーム医療を実現するための根幹であるコミュニケーションの障壁となっている場合も見られる(岩満, 2010)。臨床心理士に限らず、メディカルスタッフが共通に受けるべき教育研修と、各職種がその専門性の獲得のために独自に受けるべき教育研修を分けて考え、前者の共通部分の教育研修を多職種で、それこそ協働で実現できないかという提案がなされている(チーム医療推進協議会教育ワーキンググループ, 2010)。臨床心理士の養成教育を考える者は、このような議論に積極的に関与してゆく必要があるだろう。

臨床心理士が多職種間で上手く協働し、チーム医療の一員として成熟してゆくためには、これまでの3つのキーワード(チーム医療, 多職種協働, 臨床心理士の役割と専門性)でふれられてきたような点に留意し、自身の専門性を高め、アイデンティティを確立・明示する努力から始める必要がある。むろん、基本的な医学的知識, 医療システム, 関連する法律などを理解し, 各職種の役割を十分に理解し尊重することの大切さはいうまでもない。

文 献

岩満優美（2010）精神医療における心理士の役割. 厚生労働科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業「精神障害者の地域ケアの促進に関する研究」班, 平成 19～21 年度総合研究報告書 総括・分担研究報告書, 217-222.
 岩満優美, 平井啓, 大庭章ほか（2009）緩和ケアチームが

求める心理士の役割に関する研究—フォーカスグループインタビューを用いて. 緩和医療学 4-2; 228-234.
 チーム医療推進協議会教育ワーキンググループ(2010)チーム医療推進のための教育. チーム医療推進協議会関連団体会長会議提出資料（2010年12月20日）.

告知

……ブックフェアのお知らせ——心理学書販売研究会 × ジュンク堂書店大阪本店

心理学を学ぼう——ココロの“学”の鳥瞰図

期間：2011年9月4日（日）～2011年11月2日（水）

開催店：ジュンク堂書店 大阪本店 3階／中央催事場

（〒530-0003 大阪市北区堂島 1-6-20 堂島アバンザ 1～3 F／Tel：06-4799-1090）

心理各分野の基本図書・理論書を中心に、現在の「心理学」の全体像を提示します。

初学者から研究者、臨床家まで必読の文献です。

先行する大家達の高い山・深い海を乗り越えて下さい。

SST や箱庭グッズも取り揃えてみました。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

◎心理学書販売研究会協賛出版社

明石書店・岩崎学術出版社・金子書房・川島書店・金剛出版・人文書院・新曜社・誠信書房・創元社
 東京大学出版会・ナカニシヤ出版・日本評論社・日本文化科学社・みすず書房・ミネルヴァ書房